

大規模コーパスベース音声対話翻訳技術の研究開発（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
13-01	A	<p>研究開発は着実に進められており、その技術的成果の水準も高い。特許出願や学术论文の発表は積極的に行われており、この分野での研究開発を先導している。研究室環境においては、最終目標と同程度の翻訳機能を実現している。実環境での利用に関しては、基礎技術の積み上げ、技術の比較検討が進められているが、これからの研究開発後半における課題である。</p> <p>事業化に関しては、ソフト設計、開発、デバック等を経てライセンス企業により事業化する計画であり、計画は概ね妥当であるが、現時点ではライセンス先の企業は決まっていない。当該受託企業内では事業化に対する意欲は高く、マルチクライアントプロジェクトという独自のプロセスと並行した事業化体制は、円滑な事業化のために有効な方法であると考えられる。今後、ライセンス先の企業の早期の確定等が望まれる。事業化は、主に海外旅行者の相当数が音声翻訳機器を購入することを前提としているが、海外旅行者のマーケットの開拓に限らず、ライセンス先の企業が行う事業化の展開について、広く、柔軟に考えて一層の市場拡大の可能性を検討していく必要がある。また幅広い用途を意識した研究開発の意識が大切である。</p>		